

J.S.バッハ

ケーテン侯のための葬送音楽

1729年、バツハ44歳——不惑に至ったバツハの最高芸術

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

《ケーテン侯のための葬送音楽》 BWV 244a

《追悼頌歌》 BWV 198

大塚直哉 指揮
鈴木美登里 ソプラノ
青木洋也 アルト
櫻田 亮 テノール
小藤洋平 バス

[合唱]
東京マルコ受難曲合唱団
合唱指揮 吉田真康

[器楽アンサンブル]
コーヒーカップ・コンソート
(古楽器使用)
コンサートマスター 桐山建志

2020年2月10日(月)

19:00 開演

(18:15開場／プレトーク18:30～ 加藤拓未)

浜離宮朝日ホール

全席自由 前売 4000円／当日 4500円

●ご予約・お問合せ
オフィスアルシュ Tel. 03-3565-6771

●チケット取扱い
朝日ホールチケットセンター Tel. 03-3267-9990
東京古典楽器センター Tel. 03-3952-5515
イープラス <http://eplus.jp>

主催 東京マルコ受難曲合唱団
後援 日本チェンバロ協会

バッハの最高芸術

《追悼頌歌 —— 侯妃よ、さらに一条の光を》 BWV198

《ケーテン侯のための葬送音楽 —— 嘆け、子らよ》 BWV244a

《追悼頌歌》BWV198は、亡くなったザクセン宮廷の「エバーハルディーネ侯妃」を偲んで1727年に作曲された「バッハ屈指の名曲」です。エバーハルディーネ侯妃は、政策の都合でカトリックに改宗した夫君・ザクセン選帝侯に苦言を呈し、自身はルター派プロテスタントの信仰を守りました。その侯妃の高潔な人柄は、バッハのいるライプツィヒを含むザクセン領域の多くの人びとに愛され、人気がありました。そのため、侯妃が亡くなったとき人びとはとても悲しみ、ライプツィヒでは1727年10月17日に侯妃の追悼式典が企画され、バッハが追悼音楽を担当したのです。おそらくバッハも侯妃を心のなかで慕っていたのでしょう。その追悼音楽は、まさに当時の段階での「バッハ芸術の結晶」にふさわしい最高水準の出来栄えとなっています。

それから約1年後の1728年11月、アンハルト＝ケーテン侯レオポルトが34歳の若さで早世。バッハはライプツィヒに着任する前の約6年間、ケーテンで宮廷楽長をつとめており、その関係でケーテン侯の葬送音楽の依頼があったのです。音楽に造詣の深かったケーテン侯とバッハとの間には主従関係を越えた、芸術を通しての信頼関係があったと言われています。敬愛する同侯を、自身の最高の音楽で送りたいと思ったバッハは2年前の1727年4月に初演した《マタイ受難曲》(初期稿) BWV244bと、同年10月に作曲した上述の《追悼頌歌》BWV198から曲を選び、《ケーテン侯のための葬送音楽》BWV244aを作曲しました。つまり、この作品は、バッハが1729年の時点で、もっとも自信のある音楽を集めた「究極ベスト」だったのです。

残念ながらこの「究極ベスト」の楽譜は失われてしまいましたが、今回は作曲家・松岡あきひさんによる「復元版」(初演)で、このバッハの「究極ベスト」を体体験したいと思います。1729年、バッハ44歳——不惑に至ったバッハのふたつの最高芸術を一掃に体験してみませんか？

加藤拓末 (音楽学/バッハ研究)



大塚直哉 Naoya Otsuka 指揮

東京藝術大学楽理科卒業、同大学院チェンバロ専攻、阿姆斯特ダム音楽院チェンバロ科およびオルガン科修了。アンサンブルにおける通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガン、クラヴィコードのソリストとして活躍するほか、これらの楽器に初めて触れる人のためのワークショップを各地で行っている。ソロCD「ルイ・クーラン：クラヴサン曲集」(ALM RECORDS)のほか録音多数。現在、東京藝術大学音楽学部教授、国立音楽大学非常勤講師。NHK・FM「古楽の楽しみ」案内役として出演中。



鈴木美登里 Midori Suzuki ソプラノ

神戸に生まれる。京都市立芸術大学声楽科大学院修了後、兵庫県芸術文化海外留学助成金を受けオランダに留学。グレゴリオ聖歌からバロック期に至る古楽声楽とアンサンブルをDr. レベッカ・スチュワート、マックス・ファン・エグモントの各師に学ぶ。留学中より国内外の古楽グループのソリストとしてコンサートツアー及びレコーディング活動に参加。2000年に帰国してからは、特に初期バロック期のソ声楽曲及びマドリガーレの研究に力を注ぎ、コンサートや講習会など積極的な活動を展開している。声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」を主宰し、C.モンテヴェルディによるマドリガーレ集の全曲演奏と録音を完結。



青木洋也 Hiroya Aoki アルト

東京藝術大学大学院修士課程古楽科修了。エリザベト音楽大学大学院宗教音楽学専攻修了。バッハ・コレギウム・ジャパンを始めとする古楽アンサンブルや演奏会ソリストとして国内外の公演・録音に参加する他、アイルランド・ダブリンやドイツ・ライプツィヒ等でアルトソロをつとめるなど活躍の場を広げている。ソロCDとしては2011年「大なる神秘」(Regulus)、2013年「夜の祈り」(WAON RECORD)、2014年「時が止まる」(Regulus)、2016年「Songs」、2018年「トスティを歌う〜英語による歌曲を集めて」(ALM RECORDS)をリリース、レコード芸術特選盤他高評を得る。また合唱指揮の分野でも高い評価を得ている。



櫻田 亮 Makoto Sakurada テノール

東京藝術大学大学院修士課程修了。1997年よりイタリアを拠点にヨーロッパ各国で幅広く演奏活動を行い、オッターヴィオ・ダントーネ、クラウディオ・カヴィーナ、ジョルディ・サヴァール、など多くの著名な指揮者とソリストとして共演。国内ではサヴァリッシュ指揮のNHK交響楽団、鈴木雅明指揮のBCJなど、多くのオーケストラと共演。2002年ブルージュ国際古楽コンクール第2位など受賞多数。日本イタリア古楽協会運営委員長としてイタリア・バロック音楽の普及に務めている。東京藝術大学教授。



小藤洋平 Yohei Kotoh バス

国立音楽大学卒業。尚美ディプロマコース及びハンブルク音楽院修了。声楽を鈴木博弘、竹内則雄、クスト・シホの各氏に師事。第12回友愛ドイツ歌曲コンクール入選。在独中よりバッハ《クリスマス・オラトリオ》やカンタータ等のソリストを務め、帰国後もバッハ《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》《ロ短調ミサ曲》、ヘンデル《メサイア》、モンテヴェルディ《聖母マリアの夕べの祈り》等、宗教曲のソリストとして活動するほか、歌曲やオペラなど多くの演奏会に参加している。



桐山建志 Takeshi Kiriya コンサートマスター

東京藝術大学を経て同大学院修了、フランクフルト音楽大学卒業。1998年第12回古楽コンクール〈山梨〉第1位、1999年ブルージュ国際古楽コンクールソロ部門第1位。2000年秋リリースしたデビューCD「シャコンヌ」は、レコード芸術特選盤となる。以後、多数のCDを主にゴジマ録音ALM RECORDSよりリリース。2009年、ペーレンライター社より星野宏美氏との共同校訂による「メンデルスゾーン：ヴァイオリン・ソナタ全集」の楽譜を出版。「エルデーディ弦楽四重奏団」ヴァイオラ奏者。大塚直哉と共にデュオ・ユニット「大江戸バロック」を主宰。愛知県立芸術大学教授、フェリス女学院大学非常勤講師。

コーヒーカップ・コンソート (古楽器使用)

フルート	菅きよみ	吉崎恭佳
オーボエ/オーボエ・ダモアレ	尾崎温子	森 綾香
ファゴット	安本久男	
ヴァイオリンI	桐山建志	荒木優子
ヴァイオリンII	大西律子	廣海史帆
ヴィオラ	小林瑞葉	
チェロ	山根風仁	
ヴィオラ・ダ・ガンバ	鬼澤悠歌	折原麻美
ヴィオローネ	栗田涼子	
リュート	佐藤亜紀子	瀧井レオナルド
オルガン	大村千秋	

浜離宮朝日ホール

東京都中央区築地5丁目3-2 朝日新聞東京本社 新館
TEL: 03-5541-8710 <https://www.asahi-hall.jp/hamarikyu/>

- ・都営大江戸線「築地市場駅」(A2出口) すぐ
- ・東京メトロ日比谷線「築地駅」(1、2番出口) より徒歩約8分
- ・東京メトロ日比谷線・都営浅草線「東銀座駅」(6番出口) より徒歩約8分